区民会議フォーラムのワークショップで出た意見

資料４－１

テーマ①　コミュニティの活性化のためにどのようなしかけ（企画）が必要か。

コミュニティ促進部会Ａ

グループ	出された意見（ポストイット）
子どもから大人まで楽しめる人を集客	・楽しい企画（笑いがある） ・音楽イベント・大道芸 ・歌声喫茶。誰でも一緒に歌いましょう。 ・定期的に映画を上映
境界を越えた絆づくり	・３大学と交流 ・区内のNPOと交流 ・かきねのない集まりにする。（町会等の区切りを越えて）
年齢を越えた趣味・健康づくり	・青空囲碁・将棋大会 ・公園体操などの既存行事（イベント）の活用
シニアを活かす	・女性の登場（男は縁の下の力持ちで） ・子育て応援広場（シニアが応援隊） ・町内の積極的な人の活用
研修会・勉強会の開催	・ためになるテーマを時々提供する事。 ・防災知識の普及・啓発活動 ・一芸に秀でたもの。 ・シニアが本の読みきかせ
既存の地区団体の活用・周知の徹底	・多世代というよりは、子ども同士が交流できる方が良いのでは。 ・年長が年少の子どもに遊びやけんかも含めて。 ・情報発信の場所
その他	・できる限り使いやすい「場」の準備と行政の支援。 ・現状しかけは、かなりあるのではないでしょうか。 ・自由を尊重する。（行政は、できるだけ口を出さない） ・お祭り年２回くらい

コミュニティ促進部会Ｂ

グループ	出された意見（ポストイット）
ドラえもん	・多摩区の日に藤子ミュージアムを区民に無料開放 ・施設（ドラえもん広場・民家園）行きやすい場に
音楽会	・一流の音楽家。芸術面の人を呼んで。心のゆとり・うるおいの場を ・定期的な演奏会 ・音楽会（カラオケではなく）小さくてもいいので生の音楽会
留学生との交流	・留学生との交流会 ・留学生の活用。子ども達の為に留学生との交流の場を身近な場所で ・観光ガイドの活用。郷土の身近な紹介の講話会
カラオケ・歌を楽しむ	・区民祭でカラオケ大会を。 ・老人向けカラオケ会、場は外。（場を固定すると、イベントは限定され発展性が少ない） ・地域の町おこしとして、コーラスの出前をしています。 ・多摩音頭の踊り、歌の充実
クリーン運動	・町をきれいにする運動
会食	・多世代での会食の会
Walking「健康」	・健康増進運動 ・ピンピンコロリ運動。介護保険を使わず、健康で生きる為 ・Walkingの開催（場を固定すると限定的）
大学の活用・講座の実施	・大学を会場に良い話・啓発等を ・講座（講演会）の開催等ITを楽しく生活に活かす方法。
その他（意見）	・地域振興課が担当する「ふらっと」と合体して、どこまで発展するか、やってみる。本会が一から始まるより手軽に実行可。

テーマ②　しかけ（企画）を実施するためにどのような人材が必要か。

コミュニティ促進部会Ａ

グループ	出された意見（ポストイット）
趣味の人材の活用（道楽）	・楽器の演奏（趣味で）出来る人 ・市・区内に住む音楽家・大道芸人 ・昔のエレキバンド ・落語家。歌声リーダー ・趣味のグループ ・囲碁・将棋・麻雀のプロ
若い世代、特に学生との連携（学生の取り込み）	・学生（学習テーマ・社会勉強） ・大学生を取り込む ・子持ちのお父さんに声掛け
垣根を越えてリーダー的存在の人の活用	・趣旨を理解して支援する人 ・積極的に活動できる人（リーダー的） ・世話役ではなく、せわやき（おせっかい）
ヤングシニア世代の活用・発掘	・「団塊」世代 ・昔子どもだった人（遊び相手） ・定年前の人にアプローチ ・定年前の男性（清掃活動などを頼る）

コミュニティ促進部会Ｂ

グループ	出された意見（ポストイット）
ボランティア	・各方面に呼びかけ、ボランティアを集う。 ・様々なコミュニケーションの中心者との交流。（区内） ・ボランティアへの呼びかけ。
定年退職者	・定年された方の起用
愛好家	・花愛好家、郷土史研究家。自然・森林アドバイザー等地場の素人研究家を探し、助言を求める。 ・経験者、場慣れした人。どこにでもいらっしゃる。 ・それぞれの資格を持った方、起用 ・窓口（大学生・学校）。日本の文化（きもの）着付け
専門家	・芸術家との意見、コミュニケーション ・栄養士さんや有名な料理人さんに来て頂く。 ・コーラスの指導者。 ・体操の先生。
行政機関との連携	・この企画のスタッフ（区役所）窓口 ・まちづくり協議会と合体して助言をいただく。
3大学（大学生）	・大学生 ・３大学の学生さん ・３大学の学生を動員して手伝ってもらう。

資料4－2

コミュニティ交流促進部会の審議について

審議の概要

地域課題の把握と目的設定

めざす身近なコミュニティのイメージと検討の方向性

→ **めざすコミュニティのイメージを共有したうえで、「場」「人材」「しかけ」の3点から審議・検討することとした**

→ フィールドワーク・モデル事業など

→ **めざすコミュニティのイメージは保持しながらも、既存の施設の条件のもとで、有効に活用できる方策を検討**

1．地域のコミュニティに関する現状・課題とめざすべき方向性

(1) 地域課題の把握と目的設定

地域社会の中で、核家族数・単身世帯数の増加により、人と人とのつながりが希薄化している。防犯や防災など、安心して安全に暮らせるためには、地域での日頃の付き合い・つながりが必要である。このことからコミュニティ交流促進部会は、「世代間交流などを通して身近なコミュニティの活性化を図る」ことを目的とした調査審議を行うこととした。

区の現状・地域の課題

●核家族数・単身世帯数の増加により、人と人とのつながりが希薄化
●安全・安心、子育て支援、高齢社会への対応の必要性

なぜ地域のコミュニティの活性化が必要とされるのか

●安心して安全に暮らせるために
●いざというときに助けあえる関係が必要
●そのためには日頃からの付き合いが大切である

→ **課題解決のために…**

目的

●世代間交流などを通して身近なコミュニティの活性化を図る

(2) めざす身近なコミュニティのイメージと検討の方向性

身近なコミュニティについて話し合った結果、「だれでも参加できること」「おしゃべりなどして人と人との交流ができること」「定期的に（いつでも）やっていること」「徒歩で行けるくらい身近な場所にあること（地域ごとにあるとよい）」などのイメージの共有を行った。また、身近なコミュニティづくりを進めるためには「場」「人材」「しかけ」が必要であることから、これらを順に調査審議していくこととなった。

めざす身近なコミュニティのイメージ

●だれでも参加可
●おしゃべりなどして人と人との交流ができる
●定期的にやっている（いつでも）
●徒歩で行けるくらい身近な場所にある（地域ごとにあるとよい）

検討の方向性

●身近なコミュニティづくりのためには、3つの要素が必要
①「場」
・地域の方々が気軽に集まれる場が必要(拠点づくり)
・現状施設の把握及び周知
・既存施設の有効的な活用
②「人材」
・場の活用や人と人をつなげられる人材（企画・調整・運営）
・一芸に秀でた人等（スタッフ）
③「しかけ」
・気軽に参加できること
・スタッフも参加者も楽しいと思えるもの
・人が集まる動機付けが必要
・多くの人が参加するための広報等

2．場についての審議

(1) 場に求める機能

コミュニティの場に求める機能は様々あるが、部会での審議の結果、コミュニティの促進に最も重要であることから「サロン的なスペース、飲食可、誰もが利用できる場」を優先審議することとした。

●コミュニティの場に求める機能とは？
・サロン的なスペース、飲食可、誰もが利用できる（優先審議）
・軽スポーツ、体操、ゲームができる
・市民団体の情報受発信、講座等が開催できる

(2) 既存施設の有効活用

地域の住民が気軽に制約なく集まれるという点で、新規施設の建設や空き家・空き店舗活用などの事例検討を行ったが、費用やしくみ作りの面で難しいことから、公共や民間の既存施設の有効活用に着目して、調査を行った。

フィールドワーク①（平成23年5月19日）
○カフェたまりばーる（民間施設）
・つくられた経過
・日頃の運営状況
・課題（開設当初資金・家賃など）

→
・多摩区の地域特性に見合ったしくみづくりが必要
・既存施設を紹介する取組
・一芸（特技）を持っている人の発掘と把握
・既存施設（こども文化センター等）の運用基準についても調査の必要あり

フィールドワーク②（平成23年6月6日）
○枡形こども文化センター
・利用状況
・実施イベント
※枡形いこいの家を見学

→
・年代ごとのコミュニティ施設は現状としてある
・こ文といこいの家の交流ができると理想的
・多摩区はこ文といこいの家との合築が多い（5か所）
・モデル的な事業の検証→パターン化
・成功事例の紹介

ヒアリング（平成23年7月21日）
多摩区社会福祉協議会へのヒアリング
○いこいの家の夜間・休日開放について
・夜間・休日開放は、平成23年1月から全館で実施
・利用者の年齢条件がなくなる（60歳未満でも利用可）
→ 多世代交流が可能
・利用目的について：社会福祉活動や地域活動のため
・利用の仕方：団体登録が必要、事前の利用申込制

→
・いこいの家は地域ごとにあるので、町内会など地元の団体が中心となってできるとよい
・まちづくり協議会と協力して、モデル事業を実施できるとよい

フィールドワーク③（平成23年10月16日）
○いこいの家でモデル事業として「ふらっと」を実施
多摩区まちづくり協議会「多摩の居場所ふらっと」プロジェクトと協働で、枡形いこいの家での世代間交流事業を実施
【目的】
場のひとつとして、いこいの家活用の検証と多世代交流の実地体験
【事業実施後の振り返りの意見など】
・毎回やるには、準備などたいへんな労力がかかる
・それぞれの地域でできるとよい
・いこいの家が夜間・休日開放していることをもっとPRしたほうがよい。
・こども文化センターとの連携ができるとよい
・地域の人に来てもらって、ふらっとのノウハウを知ってもらい、持ち帰った地域の人が主体となってやってくれるとよい。

報告書骨子(案)

資料4－3

調査審議のまとめ

場

①場に求める機能
「サロン的なスペースで、軽い飲食が可能で、誰もが利用できること」
②マップの作成
③フィールドワークによる実地調査(既存施設の有効活用)
●カフェたまりばーる
●枡形こども文化センター
●多摩区社会福祉協議会
●枡形いこいの家でのモデル事業(人材・しかけも含む)

(まとめ)
●どんな施設が区内にあるのかという情報を広く区民・団体に知らせる必要がある。
●いこいの家の夜間・休日開放は始まったばかりで広く認知されていない。PRをすれば地域の団体が利用するのではないか。
●いこいの家は地域ごとにある(区内7か所)

モデル事業の実施
(多摩区まちづくり協議会との協働により実施)

●目的
場のひとつとして、いこいの家活用の検証と多世代交流の実地体験

【しかけ】
ヨガ、駄菓子屋さん、手品、昔遊び、サロン(軽飲食)

【人材】
多摩区まちづくり協議会、(区民会議)、ボランティア(ヨガ、手品)

【場】
枡形いこいの家

【まとめ】
●事業実施の場合は、具体的な体制(人材)の検討が必要
●それぞれの地域で開催できればよい
●いこいの家の夜間・休日開放をもっとPRしたほうがよい
●こども文化センターとの連携ができるとよい
●しかけをやるとして、そのPRが必要
●地域の人に来てもらって、この事業のノウハウを知ってもらい、持ち帰った地域の人が主体となってそれぞれの地域でやってくれるとよい。

人材

部会委員へのアンケートからの意見

●人材
○一芸を持った人材
○場を見守る人、その場で調整する人
○町内会やNPO等の営利目的でない団体が核となる
○目的を持ち企画・調整を担える組織
○既存の人材を見つけ出す、募集する
○地域コミュニティリーダー講習会、研修講座の開催等で人材育成の場を設ける
○定年退職世代・団塊の世代
○地域コミュニティに関わっている学生
●しかけ
○効果的なPR (チラシ・ポスター・掲示板・市政だより・タウン情報誌など)
○イベント・企画 (多様なジャンルの企画、やりたいことを区民から募集する)
○読み聞かせ・小物作り・健康体操・合唱
○軽食喫茶、駄菓子の販売、作品の展示・販売
○生活・医療相談、貸し会議室・談話室・厨房
○各世代の人が関心・興味のある講習会・お楽しみ会・作品展示などを開催
○既存の施設の中にフリースペースを設ける

しかけ

フォーラムのワークショップでの意見

●人材
趣味(一芸)をやる人がいると良い
若い世代の参加が必要
リーダーとなる人が必要
ヤングシニアの参加が必要
●しかけ
共通の趣味で交流ができる
健康づくりにつながる
子どもから大人まで楽しめる企画がある
学べる機会がある
情報発信ができる

報告案

報告1 「場」の情報の調査・提供について

(1)「多摩区コミュニティ施設マップ」の作成
部会の調査審議にあたり、現存コミュニティ施設の配置状況、目的や利用対象者を整理するため、「多摩区コミュニティ施設マップ」を作成した。既存の公共施設にとどまらず、民間の取組も広く知るため、「多摩区まちづくり協議会」の協力をいただき、NPO団体やコミュニティカフェなどの民間施設も掲載した。また、マップの周知と内容の充実もはかる必要がある。

(2)いこいの家の夜間・休日開放のPR
「いこいの家の夜間・休日開放」では、「60歳以上の方」という利用者の年齢制限がなくなり、コミュニティの活性化の場として利用できそうな施設のひとつであるが、この事業は平成23年1月から実施で、まだ充分に周知されているとは言えず、地域での活用促進を図るため、「多摩区コミュニティ施設マップ」などを活用して今後とも広報を行っていく必要がある。

報告2 地域での世代間交流推進への取組について

地域社会の中で、核家族化・単身世帯の増加により、人と人とのつながりが希薄化している。防犯や防災など、安心して安全に暮らせるためには、地域での日頃の付き合い・つながりが必要で、世代間交流などを通じて身近な地域でのコミュニティを活性化する必要がある。
「オーガニックカフェたまりばーる」など民間施設での積極的な取組み事例や今回の「枡形いこいの家でのモデル事業」の取組みなどを知ってもらい、また行政などが提供する協働事業や支援メニューなどを紹介・活用しながら、地域の人が主体となってそれぞれの地域で世代間交流に取り組んでいくことが必要である。

(1)地域の世代間交流の取組
●場: いこいの家など既存の施設を活用する
●しかけ: 趣味、健康、つながる、学べる・・・などの企画
●人材: 地域の人が主体になる、専門家・一芸の人が参加する、若い世代・ヤングシニアが参加する

(2)行政等の協働事業・支援メニュー
●磨けば光る多摩事業(多摩区)
●かわさき市民公益活動助成金(かわさき市民活動センター)
●広報(市政だより区版、チラシの配架など)
●市民自主学級・市民自主企画事業(市民館)
●学習情報の提供(サークルの紹介)(市民館)
●空き店舗活用・創業支援事業(経済労働局)

【課題】
地域のコミュニティの拠点や期待される人材などを審議する中で、以下のような意見が出たが、当初部会でめざしていた身近なコミュニティのイメージを実現させるには、さらに十分な議論が必要である。

○地域で世代間交流の取組みを行う組織や人材の発掘・育成が必要
○現在把握している場以外に、いつでも利用できるような場ができないか検討が必要

今後のスケジュールについて（第３期区民会議）

資料　５－１

		平成22年度										平成23年度											
		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
				第１回全体会議（８月３日） 全体打ち合わせ（７月２６日）			第２回全体会議（１１月８日） 区民会議ニュース			第３回全体会議（２月１６日）		区民会議ニュース	第４回全体会議（５月２６日）			第５回全体会議議（８月３１日）	区民会議ニュース	フォーラム（１０月２９日）	第６回全体会議（１１月３０日）			第７回全体会議（振り返り）	区長報告 報告書・区民会議ニュース
専門部会	企画部会					11月1日				2月9日			5月17日			8月22日			11月25日				
	環境・観光部会				9月6日	10月4日	11月29日		1月20日		中止	4月20日			7月8日	8月4日	9月26日	10月14日	11月17日				
	交通安全部会				9月15日 地域コミュニティ部会	10月20日	11月22日		1月13日		3月10日	中止			7月14日	8月3日	9月28日	10月19日	11月18日				
	コミュニティ交流促進部会					10月25日		12月2日	1月26日		中止	4月27日			7月12日	8月8日	9月6日	10月18日	11月11日				

今後のスケジュールについて（詳細版）

資料５－２

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全体会	フォーラム（１０月２９日）	第６回全体会議（１１月３０日） 報告書の方向性確認		委員全員へ報告書素案の送付と意見集約	第７回全体会議（振り返り） 報告書を確定させる 今期の運営方法の検証	報告書の印刷・区民会議ニュースの作成 区長報告
専門部会		部会	方向性に基づいて報告書（素案）の作成 部会員へ報告書素案の送付	部会 報告書の素案について検討	部会 各委員からの意見に基づいて報告書の素案修正	